第51期 報告書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

株式会社アルファシステムズ

証券コード：4719

株主の皆様へ

代表取締役社長　齋藤　潔

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申し上げますとともに、平素よりのご支援並びにご愛顧に対し、深くお礼申し上げます。

第51期は、新型コロナウイルス感染症の影響は少なくなりましたが、世界情勢の緊迫化と急激な為替レートの変動による影響を受け、景気は足踏み状態となりました。国内IT市場では、デジタルトランスフォーメーション(DX)を中核として戦略的なシステム投資が進み、流通・サービス分野や金融分野を中心に、良好な受注環境が継続しました。

その結果、売上高は11期連続の増収、営業利益は8期連続の増益、売上高、営業利益ともに過去最高となりました。

経済全体では、海外経済の減速や物価の上昇などにより、景気の先行きは不透明感がありますが、国内IT市場は、公表されている市場予測のデータも概ね良好であり、企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)投資やEコマースの拡大、また、官公庁や金融システムのデジタル化やモダナイゼーションの進展に支えられ、今後も堅調を維持していく見通しです。

また、当社が最も得意とする通信システム分野においても、NTTが提唱する次世代のネットワーク・情報処理基盤「IOWN(アイオン)」にて、今年の3月に「APN IOWN 1.0」のサービスが開始されるなど、その計画は着々と進行しています。

当社の将来像は「社会インフラを支える企業」です。これからも「お客様の事業に精通したエンジニアが最新の技術を活用し、安定かつ上質なサービスを継続的に提供することを支援する企業」として、持続的な成長を果たしてまいります。

当社は昨年、創立50周年を迎え、今年は新たな50年に向けた第一歩の年となります。今までの良い文化を踏襲するとともに、新技術、新システム、新ビジネスに積極的に挑戦し、全社一丸となって、一層の努力を重ねてまいります。

第51期の配当金につきましては、中間配当を35円、期末配当を35円とさせていただきました。今後も、安定的かつ継続的な配当による利益還元とともに、配当水準のさらなる向上に向け、収益力を高めてまいります。

引き続き、株主の皆様の一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2023年6月

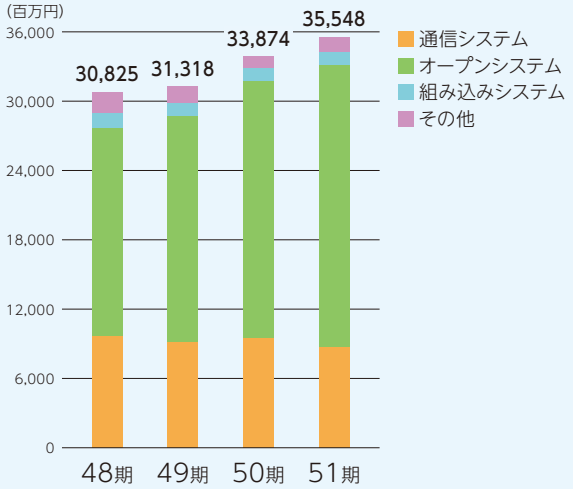
決算ハイライト

当期の事業環境と業績

当事業年度におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症で抑制されていた経済活動の正常化が進んだものの、世界情勢の緊迫化と急激な為替レートの変動による資源高の影響を受けました。この結果、海外経済の減速と物価の上昇が発生し、景気は足踏み状態となりました。

情報サービス業界では、先端技術の活用で事業を変革するデジタルトランスフォーメーション(DX)を中核として、企業の戦略的なシステム投資が進められました。これにより、様々な分野でデ

売上高(事業区分別)



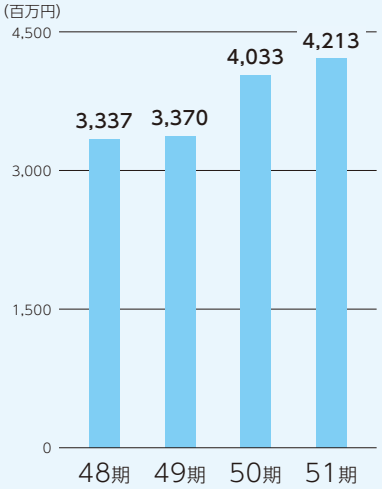
ジタル化のためのシステム開発需要が拡大しました。また、Eコマースの拡大や公共・金融分野におけるITシステムのモダナイゼーションの動きも活発化していることから、良好な受注環境が続きました。

一方、通信分野では、第5世代移動通信システム(5G)の普及が進むとともに、次の世代の通信規格に関する検討や、高速大容量かつ膨大な計算処理を実現する通信・情報処理基盤の構想が進展しておりますが、ソフトウェア開発需要の増加ペースは低調に推移しました。

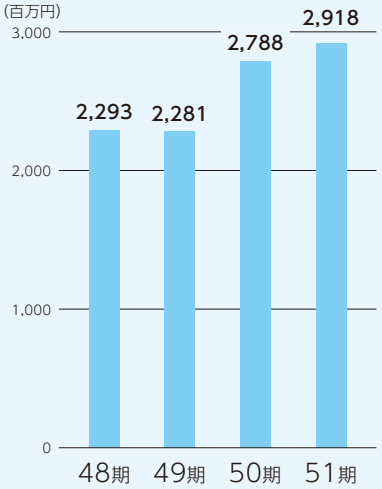
このような事業環境の中、当社は開発体制の拡充を継続し、事業の拡大に努めてまいりました。

以上の結果、売上高は35,548百万円(前期比4.9%増)、営業利益は4,213百万円(前期比4.5%増)、経常利益は4,279百万円(前期比4.7%増)、当期純利益は2,918百万円(前期比4.7%増)となりました。

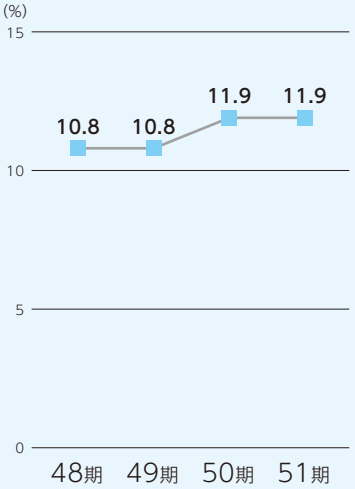
営業利益



当期純利益



売上高営業利益率



事業概況

(百万円)

通信システム　8,690　前期比　8.1%減

ネットワークマネジメント及びモバイルネットワーク関連の売り上げが減少いたしました。

ノード ―― 2,481　前期比　2.7%増

コアネットワーク(基幹通信網)関連の売り上げが増加いたしました。

モバイルネットワーク ―― 2,090　前期比　13.9%減

業務用無線関連の売り上げが減少いたしました。

ネットワークマネジメント ―― 4,118　前期比　10.6%減

放送用通信ネットワーク及び固定通信ネットワーク関連の大型案件が収束段階となり売り上げが減少いたしました。

オープンシステム　24,461　前期比　9.6%増

流通・サービス及び金融関連の売り上げが増加いたしました。

公共 ―― 5,402　前期比　5.4%減

エネルギー関連の売り上げが減少いたしました。

流通・サービス ―― 10,398　前期比　12.5%増

Eコマース関連の売り上げが増加いたしました。

金融 ―― 2,852　前期比　26.3%増

決済システム関連の売り上げが増加いたしました。

情報通信 ―― 3,209　前期比　8.4%増

企業や消費者向けのサービス基盤関連の売り上げが増加いたしました。

その他 ―― 2,597　前期比　21.1%増

DX関連の売り上げが増加いたしました。

組み込みシステム　1,142　前期比　1.6%増

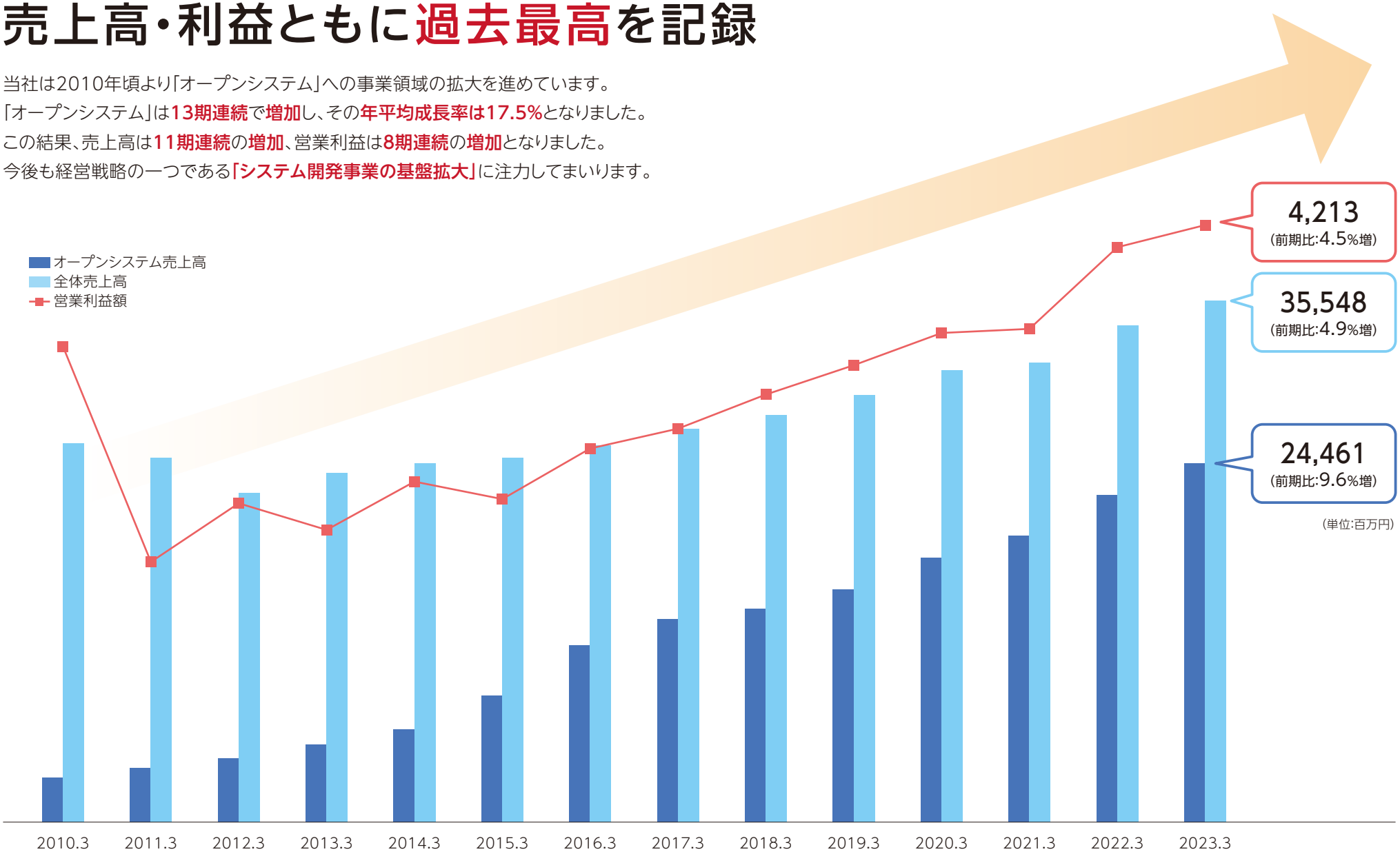
車載システム関連の売り上げが増加いたしました。

その他　1,254　前期比　28.2%増

文教ソリューション関連の売り上げが増加いたしました。

売上高・利益ともに過去最高を記録

当社は2010年頃より「オープンシステム」への事業領域の拡大を進めています。
「オープンシステム」は**13期連続**で**増加**し、その**年平均成長率は17.5%**となりました。
この結果、売上高は**11期連続**の**増加**、営業利益は**8期連続**の**増加**となりました。
今後も経営戦略の一つである**「システム開発事業の基盤拡大」**に注力してまいります。



サステナビリティマネジメントの強化

当社は経営戦略の一つとして、「サステナビリティマネジメントの強化」を掲げています。人と環境と経済の調和した社会を目指すサステナビリティの課題解決に向けて、全社的な推進体制の強化を図ることで、個々の活動の質を高めるだけでなく、一貫性のある取り組みをしてまいります。

人的資本経営

会社の持続的な成長には、人材の拡充が最も重要な要素の1つとなります。当社はこれを人的資本投資ととらえ、従業員のキャリア開発に取り組んでいます。さらに、業務を通じた挑戦の機会を増やし、新たな成長につなげることで、働きがいのある会社を目指しています。

社員一人ひとりの成長を支援する

働きがいのある会社

人材育成の充実
- 充実した階層別研修、技術教育の拡充
- 先輩社員による実践力を重視したOJT

業務への挑戦の機会
- 業務分野、開発技術・工程の異なるプロジェクトへのジョブローテーション

マネジメントの強化
- 管理職のスキルアップ研修
- 重要ポジションへのアサインメント

多様性開示

多様な人材や働き方をサポートするために、各種制度や職場環境の整備を進めています。昨今は特に女性の活躍が期待されており、女性の積極的な採用にも取り組んでいます。これらの情報は、ホームページなどで適切に情報開示してまいります。

多様な人材の働き方を支援する

働きやすい会社

女性が活躍できる職場
- 積極採用、管理職登用、育児休業制度
- 短時間勤務、在宅勤務

障がい者の就業支援
- 積極採用、業務創出、職場環境整備
- 長時間労働削減、作業サポート

株主、投資家、就職希望者などステークホルダーに有用な情報展開

サプライチェーンサステナビリティ

気候変動対応などを含むサステナビリティの取り組みは、お客様およびパートナー企業と協力しながら、社会や業界全体で考えることで相乗効果を生み出します。今後も商流が途絶えることのないよう、公正な取引を続け、お客様との協力関係を深めてまいります。

サプライチェーン全体を通して

持続可能な調達

お客様
- お客様ガイドラインの遵守
- 第三者評価機関への情報開示

Systems
- 自社ガイドラインの構築・運用
- サステナビリティ教育の拡充

パートナー企業
- ガイドラインの遵守要請
- 公正な調達

NEC主催のスーパーコンピュータプログラミングコンテストにて3位入賞

当社は、NECスパコン・プログラミングコンテストに参加し、3位となる審査員特別賞を受賞いたしました。

プログラミングコンテストの概要

日本電気株式会社（NEC）は、同社製スーパーコンピュータの最新モデルである「SX-Aurora　TSUBASA」のプロセッサの性能を活かしたプログラミング作品のコンテストを2022年11月から2023年2月にかけて開催いたしました。審査基準には、社会貢献へのアイデアの独創性に加え、処理の高速化による顧客価値や、汎用プロセッサとの性能差が含まれます。

審査は2段階で行われ、最終審査では審査員を前にしたプレゼンテーションが行われました（当社プレゼンターは、第三事業本部開発推進部部長 小林博一）。

▶ 詳細はNECスパコン・プログラミングコンテスト公式サイト（https://jpn.nec.com/co-creation/contest/contest.html）をご覧ください。

応募したプログラム作品と受賞結果について

当社は、本コンテストに向け、「SX-Aurora TSUBASA」上で動作する「世界最速量子回路シミュレータAlpha-Qu」を開発し、応募しました。現在の量子コンピュータはまだエラーの発生率が高いうえ、量子コンピュータ向けの特別なアルゴリズムが必要です。そのため、従来型のコンピュータで量子アルゴリズムを検証できる量子回路シミュレータが注目されています。しかし、従来のシミュレータでは、量子ビットを増やすと、メモリ使用量や処理時間が指数関数的に増加する課題がありました。

「Alpha-Qu」では、量子ビットを増やす仕組みを工夫し、省メモリと高速化を実現しました。その結果、従来のシミュレータの量子ビットの最大数が30程度であるなか、「Alpha-Qu」は最大41量子ビットを達成しました。処理速度も向上し、他のスパコンでは463秒を要した素因数分解のアルゴリズムの計算を3秒で完了させるパフォーマンスの実現に至りました。その性能が量子コンピュータの発展に資すると評価され、3位の審査員特別賞を受賞いたしました。

▶ 詳細は、イベントレポート（CodeZine）（https://codezine.jp/article/detail/17539）をご覧ください。

今後の展開について

当社はソフトウェア開発事業における優位性の維持・向上を目的に、先端の開発技術の調査・研究や社員の技術教育を先導する組織として、開発推進部を設置しております。今回の成果は、開発推進部の取り組みによるものであります。

今後も、量子コンピュータを含めた先端技術の獲得に努め、企業としての競争力を高めるとともに、新たな事業を模索してまいります。

当社の温室効果ガス排出量

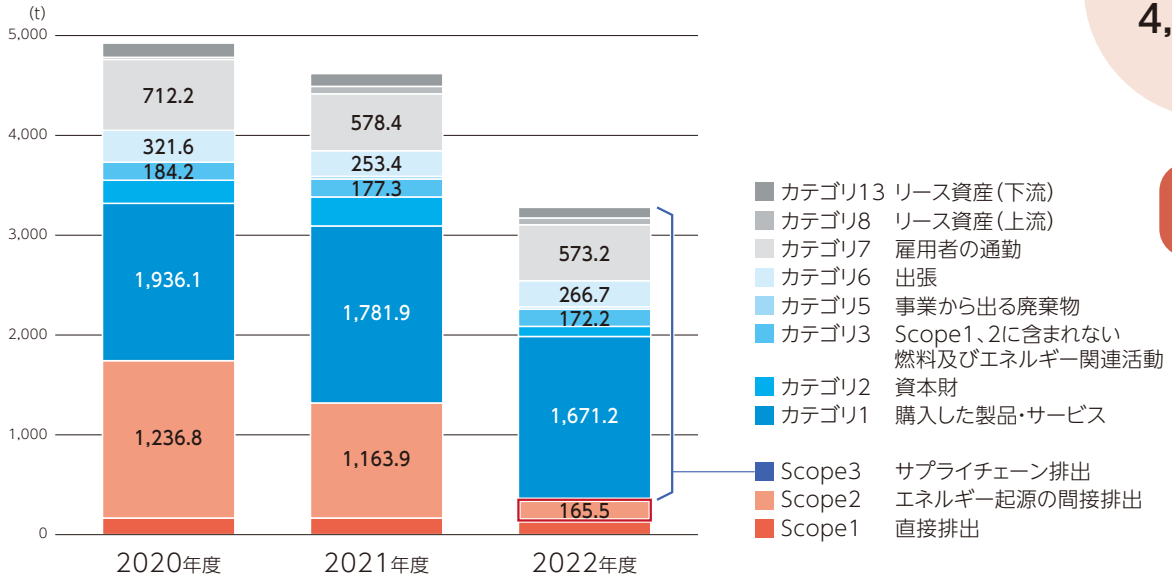
重要課題とKPI

当社は気候変動のリスク対応において、温室効果ガス排出量の削減が重要であるとの認識のもと、サステナビリティ重要課題として**「気候変動」**、該当するKPIとして**「温室効果ガス排出量」**を設定し、2030年度を目標年と定め継続的に活動を行っています。

温室効果ガス排出量削減目標と実績

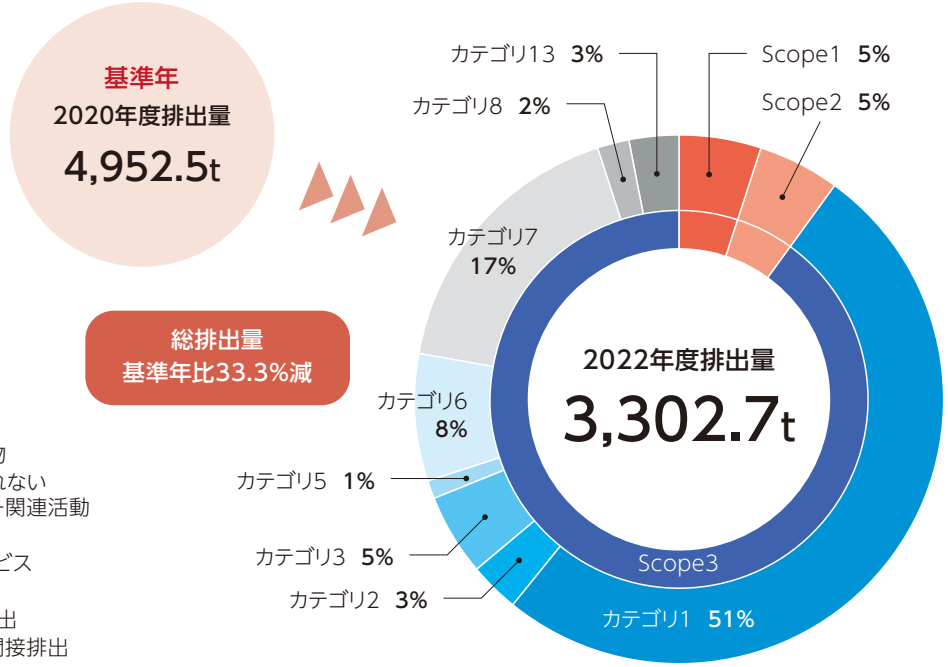
2022年度は再生可能エネルギーの導入により、Scope2が大幅に減少しました。

Scope1+2	総量で50%削減	76.0%削減
Scope1+2+3	従業員一人当たりの原単位25%削減	37.3%削減



温室効果ガスのサプライチェーン排出量

2022年度は基準年比33.3%減となりました。



トピックス

かながわカーボンニュートラルセミナーの事例発表に選ばれました

2023年2月17日から3月10日にかけて、YouTubeチャンネルにて2022年度の「かながわカーボンニュートラルセミナー」が開催され、当社は企業の取り組みなどの事例紹介で参加してまいりました。

「かながわカーボンニュートラルセミナー」は、脱炭素や省エネをテーマにしたセミナーであり、神奈川県、横浜市、川崎市と、経済産業省等が連携し、毎年事業者向けに開催されます。

事例紹介の動画では、「楽しみながら取り組む環境活動」を副題として、以下の内容を説明いたしました。

1	2	3	4
会社紹介	企業における環境保全活動	従業員が環境問題を考える「きっかけ」	他の市民、事業者等への波及効果

当社では引き続き環境保全活動に取り組んでまいります。

かながわカーボンニュートラル

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電　話: 0120-232-711（通話料無料） 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.alpha.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

お知らせ

ご注意

1. 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社アルファシステムズ
〒211−0053
神奈川県川崎市中原区上小田中6丁目6番1号
本社（中原テクノセンター1号館）
電話：044-733-4111（代表）　Fax：044-739-1100
https://www.alpha.co.jp/

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC www.fsc.org
FSC® C020167